

平成24年度 岩本町ほほえみプラザ 事業報告

I 概要

1) 利用者動向

- ・短期入所は稼働率 98.7%(前差-2.3%)と苦戦したが、新規利用者は70名(前差+12名)となった。
- ・通所介護は一般の稼働率 76.6%(前差+0.2%に対し、認知デイは 38.2%(-7.2%)と低迷した。
- ・グループホームは稼働率 98.9%(前差+2.5%) ケアハウスは 93.3%(前差-0.3%)と前年並だった。

2) 職員・育成

- ・職員体制は、退職者は少なく、年度当初の職員体制(正職員 35名 再雇用 3名 準職員 28名)をほぼ維持でき全体的には安定したが、通所介護で休職や体調不良で欠員あり勤務体制に苦慮した。

3) 平成24年度事業計画についての報告

- ・防災・防犯面、感染症等や食中毒等衛生管理面も大過ない1年であった
- ・職員個々のチャレンジプランや法人研修を生かし、スキルアップを図れた
- ・神田事業所事例発表会を開催(12月3日 30名参加) 連雀×岩本の事業をアピールした
- ・年間収支は事業活動収支差額+13百万 当期資金収支差額でも+2.6百万を計上した

4) 平成24年度重点の動き

- ・訪問食事(1671食)は3年目となり定着し、2Fほっとサロンでの介護予防利用者や連雀1Fでのほっとサロン食事は年47回427食を提供、12月からは夕食お持ち帰りサービスを開始した。
- ・法人主導での各種研修および事業監査により各種法令遵守を推進し、業務管理体制整備した

II 事業別動向

区分	成 果	課 題
短期入所	・日常活動を定期的実施、動きある時間を提供をした ・看護により利用者の体調急変に的確に対応できた	職員間の情報共有 看護・介護の連携拡充
デイサービス	・長期滞留者の見直しにより新規利用者を受け入れた ・制度に基づく書類作成・管理を各職員が自覚できた	制度に基づく事業展開 認知症の今後の対応
認知症対応型生活介護	・認知症現場研修を軸に、チームでの支援に取り組めた ・利用者は安定・稼働率 98.9%(H25/2末に1名退所)	制度法令に基づく事業の理解
ケアハウス	・職員間の情報共有により統一した支援が図れた ・鉄板料理や天ぷらをフロアで調理し好評を得た	課題の協議を深める ミニイベントの実施
総合相談	・新規夕食持ち帰り事業を開始(12月)482食(1日5食) ・GHおよびCHの速やかな入所が図れた	関係諸機関との連携 地域利用者ニーズの把握
介護予防教室	・9教室計延べ2055名の参加があった ・3月の講演会(発表会)に参加者53名と盛況	今後の利用者フォロー 参加しやすい環境工夫
事務	・事務局主導の下、新会計基準の財務処理を適正に実施 ・電気料値上げも、節電で経費増を極力抑えるよう対応	円滑な請求業務の継続 区との継続的協議
管理	・区より10年の指定管理を受け、4年度目を終了 ・区防災計画で、福祉避難拠点に位置付けされる	中長期のメンテ計画立案 福祉避難拠点として確立

III リスクマネジメント

1) 苦情・第三者評価

- ・施設全体で苦情はなかった。第三者評価は主として10月に実施(福祉規格総合研究所)

2) 感染症等予防・蔓延防止の取組

- ・看護連絡会や労働安全衛生委員会を中心に徹底した予防に努め、1年何事もなく過ごせた

3) 緊急対応

- ・大きな緊急対応はなかったは、救急車要請11件(短期8件・通所1件・GH1件・CH1件)

4) 防災

- ・毎月の防災訓練を工夫し、実のある訓練を実施。神田消防署の査察(3月)は指摘なし

5) 勤務管理

- ・突発的な欠勤対応も各部署長のマネジメントにより滞りなく事業実施できた。